厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等克服研究事業）
（分担）分担研究報告書

研究課題：消化管を主座とする好酸球性炎症症候群の診断治療法開発 疫学、病態解明に関する研究

研究分担者：所属機関　（独）国立成育医療研究センター研究所社会医学研究部
氏　　名　藤原武男

研究協力者　所属機関　（独）国立成育医療研究センター研究所社会医学研究部
氏　　名　伊藤淳

研究要旨：消化管を主座とする好酸球性炎症症候群の各国からの症例報告をもとに、システマティックレビューの手法を用いて主に白人とアジア人の間に好酸球浸潤部位の違い、症状の違いがあるかを検討した。特に平成25年度は統計解析を行い、その結果、白人はアジア人に比し好酸球性食道炎が有意に多く、好酸球性胃腸炎が有意に少ないことを明らかにした。

A．研究目的

日本と欧米で、症状や炎症が起きる部位が異なることから、全世界から報告された症例報告を詳細に検討し、システマティックレビューの手法で主に白人とアジア人の間での好酸球浸潤を認める消化管部位の違いや症状の差を検証する。人種差を明らかにすることで、本疾患の病態解明につなげる狙いがある。

B．研究方法

EGIDの症例報告をPubMedで検索。人種、病理所見、診断が明確に記載されている文献を選定し、個々の文献から症例の年齢、性別、人種、診断、診断基準、症状、好酸球浸潤部位についてデータベースに蓄積。得られたデータから統計解析し、アジア人と白人でEGIDの特徴に有意な違いがあるかを検証する。

平成24年度に入力したデータベースをもとに、平成25年度は統計解析を行った。

（倫理面への配慮）

文献レビューであり、倫理面への配慮は特に必要としない。

C．研究結果

PubMedでヒットした687本中、組み入れ基準を満たした121本の文献からデータベースを作成した。解析の結果、アジア人は白人に対して有意に好酸球性胃腸炎が多く、好酸球性食道炎が少なかった。またアジア人は嚥下困難や胸焼けの症状が白人よりも有意に少なく、嘔吐、腹痛、下痢が多かった。

D．考察

アジア人と白人の間には明らかな人種差が認められるが、その理由としては食生活の違いなどが遠因と考察される。

E．結論

システマティックレビューにより、アジア人と白人の間で好酸球性消化管疾患の症状や好酸球浸潤部位に有意差があることが明らかになった。

F．研究発表

1．　論文発表
投稿ずみ、査読審査中

2．　学会発表
Ito J, Fujiwara T, Nomura I. Racial differences in eosinophilic gastrointestinal disease: a systematic review。 EAACI-WAO (EUROPEAN ACADEMY OF ALLERGY AND CLINCAl IMMUNOLOGY - WORLD ALLERGY ORGANIZATION) World Allergy & Asthma Congress 2013

G．知的所有権の出願・取得状況（予定を含む

1．　特許取得
該当なし

2．　実用新案登録
該当なし

3．　その他
該当なし